資料９

まちから

広報かにえ

No.591

11

2020.November 令和２年

掲載している行事などは、新型コロナウイルス感染症の影響のため変更になる場合があります。町ホームページまたは各問合せ先でご確認ください。

特集 多文化共生ってなに？～誰もが暮らしやすいまちに～

10 令和元年度決算の概要をお知らせします
14 謎解きラリーin蟹江町
15 第３回蟹蟹フェア開催
16 Net119緊急通報システムの運用開始
20 Do！Kanie
25 TOWN　TOPICS

カプラ遊び（新蟹江児童館／2020）

KIFA総会・懇親パーティ（2019）

KIFA国際理解講座ペルー編（2020）

姉妹都市米国マリオン市使節団（2018）

特集 多文化共生ってなに？
～誰もが暮らしやすいまちに～

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことをいいます。

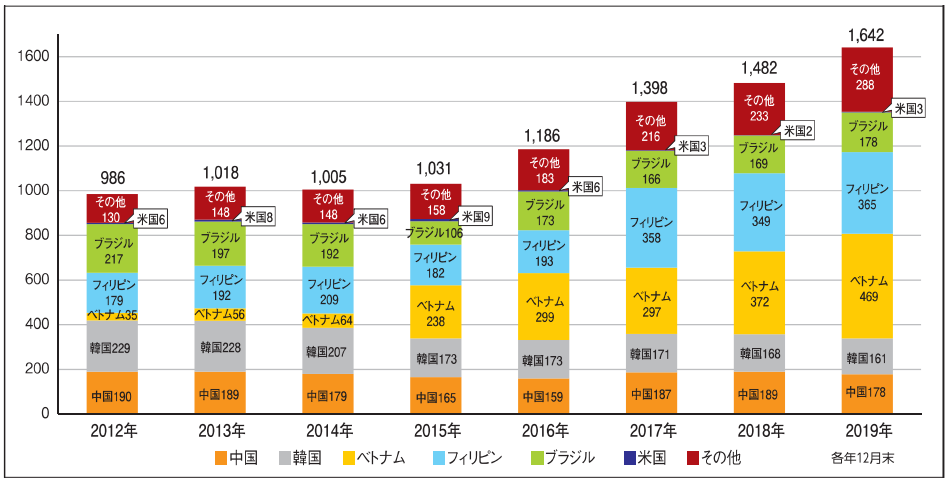
蟹江町で暮らす外国籍の方の数は年々増加しており、多国籍化もより一層進展してきています。多様な国籍の人々が共生するのが当たり前となった今、「国籍や言葉が違うから」と壁を作らず、同じ町民として、まずはお互いに歩み寄ることが大切です。

今月号は、町内で多文化共生を推進する活動を行う団体や外国人の方にお話を伺い、「誰もが暮らしやすいまち」について考えます。

11月はあいち多文化共生月間

KIFA日本語教室・新年書初め会（2019）

グラフで見る蟹江町で暮らす外国人



出典：在留外国人統計（法務省）

蟹江町には現在38か国の外国人が生活しています。そのうち、留学や企業などで働く技能実習生が約３割を占めています。

７年間で、在留外国人の総数は約1.6倍、国別でみると、ベトナムは約13倍、フィリピンは約２倍の在留外国人が増えています。

外国人住民の皆さんが暮らしやすい環境をめざしています

教育

外国人児童生徒に日本語指導を実施

外国にルーツを持つ未就学児と小中学生に日本語指導を実施しています。（写真は夏休み宿題教室／2017年）

各小中学校に翻訳機を設置

外国人児童生徒および保護者とのコミュニケーションを手助けするツールとして、75の言語に対応している翻訳機を設置しています。

子育て

母子健康手帳を10か国語で準備

外国人の母親が安心して妊娠から出産・子育てをできるように多言語の母子健康手帳を準備しています。

ごみ

町指定ごみ袋の分別種類を多言語で表記

各種ごみ袋の種類を６か国語で表記しています。また、「ごみの分別と出し方」の外国語版を作成しています。

情報

愛知県生活便利帳を各所に配置

外国人の方が愛知県で生活に必要な情報を集め、多言語で併記してある便利帳です。

町ホームページの多言語化

翻訳機能を使って、多言語で情報発信しています。

交流

中学生海外派遣交流事業・姉妹都市受入事業

町在住の中学生を対象に、姉妹都市米国イリノイ州マリオン市への派遣事業を実施しています。また、同市使節団の受入事業を実施しています。

クリスマスパーティー(2018)

「こんにちは」から始まる国際交流

Kanie International Friendship Association
かにえ国際交流友の会
KIFA

日本に暮らす外国人の中には、単身で来日し日本での生活に不安を抱えていたり、日本語がうまく話せずコミュニケーションがとれない方もいます。
国が違ってもお互いを理解し合って交流を深めることを目的に、外国人住民と地域をつなぐ活動に取り組む「かにえ国際交流友の会」会長藤田美保さんと副会長谷中ひさ子さんに活動への思いを伺いました。

会長　藤田　美保さん（左）

2001年から２代目会長を務める。創立15周年記念共催行事「日本語スピーチ大会」(2008年)の開催や名古屋大学外国人研修生のホームステイ受入(2009年～)を実施。

副会長　谷中　ひさ子さん（右）

2001年から副会長を務める。
「愛知国際交流はなのき会」所属。

外国人技能実習制度が導入 外国人実習生の増加も背景に

――団体を立ち上げるきっかけ

藤田　1993年に外国人技能実習制度が開始されて、外国人実習生の増加が見込まれることや当時の町長が国際交流の必要性を訴えられていたことがきっかけで、同年に会が設立されました。僕がたまたま外国の事情に詳しいからと前会長の棚橋さんから誘われて、会に参加しました。

近隣市町村でも国際交流協会が立ち上がり始めたタイミングでもありましたね。

谷中　私も、立ち上げ当初に友人から声を掛けていただき、参加しました。

――力を入れている活動について

藤田　町民まつりで多国籍料理のブースを出店しています。

谷中　外国人の子たちが積極的に手伝ってくれるので、とても助かっていますし、感心しています。

藤田　クリスマス会は、一番大きな行事ですね。多いときで140人くらいの方に参加していただいたこともあります。

谷中　クリスマス会では、杵と臼で作る日本の餅つきを体験させてあげたくて、本来のクリスマスとは少し違いますが、杵と臼で作る日本の餅つき体験をプログラムに組み込んでいましたね。

藤田　参加されている方の中にはイスラムの方もいらっしゃったので、本当にこれでいいのか悩んだときもありましたが、抵抗なく楽しんでくれていて、良い交流の場になっています。

代名詞は「日本語教室」 あえてマンネリにこだわり

谷中　KIFAの活動の代名詞はやはり「日本語教室」ですね。運営方法を他の市町村へ視察に行き、試行錯誤しながらずっと続けています。誰もが気軽に参加できるようにと教室の名称を「日本語しゃべろう会」にしました。

藤田　日本語教室は立ち上げ当初から続けています。無料で参加できるので参加者が多く、町内だけでなく、周辺の市町村からも多く参加しています。

谷中　多くの方に利用してもらえ

るのはありがたいですよね。ボランティアのみんなが20年以上毎週続けています。誰でも気軽に参加してほしいという思いから、「参加費無料」で継続しています。

変化する社会の中で、あえてマンネリにこだわっています。同じ時期に同じイベントがあることで、イベントを楽しみにしている外国人が毎回参加してくれています。

アットホームな「交流の場」居場所になればうれしい

——やりがいや良かったこと

藤田　イベントに参加していた外国人が、数年後に母国や日本で活躍している姿を見聞きしたときはうれしいですね。

外国人が本音で語りあえるアットホームな雰囲気づくりを心掛けています。

谷中　日本の生活に馴染めない外国人が、KIFAのイベントで楽しそうに過ごしている姿を見るとうれしいです。外国人の居場所づくりに役立っていると感じます。

イベントを通して多文化共生を伝えている

——多文化共生で大切なこと

藤田　難しい質問ですね。僕たちはイベントを通して知らないうちに多文化共生を伝えているんじゃないかな。文化の違いがあるってことを、認めないといけないですよね。

日本で暮らしている外国人が日本の生活に全て合わせないといけないということは、無謀な考えだと思います。

谷中　文化の違いを認めるためには知識も必要ですよね。外国の文化などを知って理解し合うために国際理解講座を続けています。

国際交流をもっと気楽に捉えてほしい

——これまでを振り返っての課題や今後の展望

藤田　あと３年で設立30周年を迎えますが、KIFAの認知度はまだ低いようにも感じますね。

谷中　一緒に活動してくれる若い世代の方が加わってくれるとうれしいですね。イベントに参加して、直接外国人の方と触れ合える楽しさを感じてもらいたいです。人と人とのつながりが大切だと思います。

藤田　国際交流をもっと気楽に捉えてほしいですよね。僕たちは楽しむことを一番に活動しているので、ぜひ気楽に参加してみてください。当会に参加する外国人の皆さんは、日本語で交流したいと思っている方が多いので、気軽に足を運んでみてください。

主な活動内容

年間を通して、誰もが親しみやすい交流イベントや国際理解を促す講座などを開催しています。

①総会・懇親パーティー～民族衣装を交換してみました②親善ボウリング大会～豪華景品をめざして③名古屋大学外国人研修生ホームステイ受入④日本語教室新年書き初め会⑤国際理解講座（ペルー編）～民族舞踊で一気にラテンの世界へ

かにえ国際交流友の会（KIFA）

町民レベルで国際交流をめざすボランティア団体として、1993年に設立。各種イベントや日本語教室のほか、ミャンマーを中心とする東南アジア諸国に寄付活動も継続している。

受賞歴

- ❖愛知県知事から「国際交流感謝状」（2004年）
- ❖蟹江町長から「文化振興に貢献」の表彰状（2014年）
- ❖愛知県知事から「愛知県多文化共生推進功労者表彰」（2016年）

ホームページ
http://kifa.la.coocan.jp/

川﨑直子さん（愛知産業大学短期大学国際コミュニケーション学科日本語教育コース准教授、第５次蟹江町総合計画審議会副会長）

楽しみながら小学生になる準備を

外国にルーツを持つ子どもたちは、ひらがなや数字の読み書きなどが不十分なまま小学校に入学するケースが増えてきています。
子どもたちと保護者が安心して学校生活を送るために、日本語指導に取り組む「かにえ子ども日本語の会」代表理事川﨑直子（かわさきなおこ）さんに活動の思いを語っていただきました。

子どもが保育所に入所してから中学卒業までサポート

会を立ち上げた当初は、外国にルーツを持つ小学生に日本語を指導していました。日本語を勉強すれば、授業にもついていけるようになると思っていましたが、言語だけの問題ではないことに気がつきました。そこで、町の「輝来都（キラッと）かにえ･協働まちづくりモデル事業」で外国にルーツを持つ未就学児を対象に、保育所でプレスクールを実施しました。

子どもたちが楽しそうに取り組んでいる姿に、保育所の先生方からは年長児だけではなく、年中児も日本語指導をしてほしいという要望をいただきました。先生方の理解と協力のおかげで、子どもたちが入所した時点から中学卒業までのサポート体制が整っています。

適切な教材で苦手を克服

日本語指導に子どもの国籍は、あまり関係ありません。その子のできることに着目し、得意なところを適切に伸ばし、苦手なところを克服できるような教材を使うように心掛けています。そして、日本の価値観を押し付けないように、それぞれの国の文化や良さを理解することにも配慮しています。

「オリジナル教材」を開発

鉛筆・クレヨン・消しゴムなどの筆記用具や、はさみ・のり・テープなどの道具を使うことで言葉の活動を支える土台づくりになる教材をはじめ、日本語の発達に差があっても楽しめる独自の教材を全６冊作りました。親の母国語を記入する欄もあり、親子でコミュニケーションがとれるよう工夫していますし、入学後に先生とやり取りする連絡帳に慣れてもらう意味も込めました。

独自に開発した教材の一部

「夏休み宿題教室」を開催 宿題を提出できたことが自信に

私たちの活動のひとつに「夏休み宿題教室」があります。外国出身の保護者にとっては、日誌や自由研究、読書感想文などの経験がなく、家庭内で宿題を完成させることが困難な場合があります。そ

私たち、こんな風に感じています！ KIFA日本語教室の外国人の皆さんにインタビュー

レー･キエン･チャンさん
（ベトナム出身）

Q日本に来て驚いたことは？
A日本人は勤勉でよく働くことです。定年を過ぎても仕事をする人が多いことに驚きました。
Q蟹江の好きなところは？
A四季があること、交通アクセスが良いことです。

イシガ･ユリ･クスミさん
（ブラジル出身）

Q日本に来たきっかけは？
A夫が日系ブラジル人で、日本で仕事するため一緒に来日しました。
Q蟹江の好きなところは？
A小中学校、保育所、高齢者の施設があり、小さい子どもからお年寄りまでをサポートしてくれるところです。

のため、これまで提出できないまま新学期を迎えていた子どもたちが宿題をやり遂げて、達成感を味わったり、先生に褒められたりする成功体験が自信になって、次への意欲にもつながっています。

日本で暮らしているから、日本語で育てなければと思わないで

よく日本語が母語でない保護者に対して、家庭内での言葉が外国語であるために、子どもの言語発達に遅れが出ると聞かれます。しかし、保護者が中途半端な日本語で子どもに接することで、子どもが日本語も親の母語も話せない状態(ダブルリミテッド)になるリスクもあります。

親子のコミュニケーションには親の母語も大切で、そこから親の国への愛着が生まれたりもします。また、複数の言語を習得する可能性を奪うことにもなりかねません。

外国にルーツを持つ子どもたちに、２つの言語と２つの文化を知ってもらうことで、将来の選択肢が広がり、活躍できる国や場所を自分で決められるよう、支援を続けていきたいと思います。そして、子どもたちが「日本で生活して良かった」と思ってもらえることを目標に活動しています。

教室は子どもたちの元気な声が飛び交う

多文化共生は思っているほど難しいものではない

外国人が近所に引っ越してきたときに、外国語が話せないから付き合わないのではなく、分かりやすい「やさしい日本語」で話しかけて、できることから実践してほしいですね。そうすることで、彼らが必要としている支援、必要としていない支援が理解できるかもしれませんし、逆に助けてもらうことがあるかもしれません。

多文化共生は思っているほど、難しいものではないように思います。最近は、地域で「外国人をお客様ではなく地域の一員として、みんなで共に暮らしていこう」という気持ちが芽生え始めていて、多文化共生という考え方が浸透しつつあるように感じています。全てを理解し合うことは難しいかもしれませんが、地域の一員として一緒に暮らしていける関係を築けたらうれしいです。

一般社団法人かにえ子ども日本語の会

外国人親子からの相談をきっかけに、外国にルーツを持つ子を対象に日本語指導を開始。保育所に入所してから義務教育を終えるまで子どもと保護者をサポートする体制を構築し、夏休みの宿題支援や指導者養成講座を開催するなど、多岐にわたり活動。独自の教材開発や支援のフォーマットは「かにえモデル」と呼ばれ、県内外で多文化共生の先駆け団体として活躍している。

活動略歴

2005年　設立
2006年　小中学校で日本語指導開始
2008年　保育所でプレスクール開始
　愛知県多文化共生づくり推進事業アフタースクール事業　受託
2008・2009年
　蟹江町輝来都かにえ・協働まちづくりモデル事業　採択
2009・2012・2013・2015・2016年
　愛・地球博開催地域社会貢献活動基金　認定
2016年　蟹江町子育て推進課事業「プレスクール指導者養成講座」　受託
2017年　蟹江町協働地域づくり支援事業　採択
2018年　愛知県多文化共生推進功労者表彰　受賞

セルトン・ジャヤ・スーリヤさん
(スリランカ出身)

Q日本に来たきっかけは？
A働くために来日しました。
Q日本に来て驚いたことや変だと思ったことは？
A上下関係が厳しく、目上の人には敬語を使わなければならないことです。

マイ・ティ・ホン・トゥイさん
(ベトナム出身)

Q日本に来たきっかけは？
A日本のことを勉強するために来日しました。
Q日本に住んでいて、困ったことは？
A日本語の独特の言い回しや遠回しな言い方が難しいです。

家族やママ友が支えに

上山（うえやま）　まり（ミャミャムー）さん
ミャンマー出身

――日本に来て驚いたこと

約30年前に来日しました。ミャンマーには地下鉄がないので、道路の下を電車が走っていることが不思議でした。また、トンネルも珍しかったです。

――日本に来て大変だったこと

まずは、言葉の壁が大きかったです。方言も初めは、怖かったです。あとは人間関係で、外見で判断されてしまったことですね。

――苦労したときの支え

家族やママ友、近所の人が優しくて、できないことや分からないことを丁寧に教えてくれました。

ミャンマーの郷土料理
「モヒンガー」
ミャンマーの朝食の定番麺料理。魚の出汁をベースにしたスープに、お好みのトッピングを加える。

――日本や蟹江町の良いところ

電化製品などが壊れたときに、すぐに修理をしてくれるところや、公衆トイレが衛生的で、しかも無料で利用できるところです。ミャンマーの公衆トイレは有料です。

――国が違っても理解し合うために必要なこと

思いやりが大切ですね。生まれた国が違うから、外見や言葉が違うのは当たり前です。相手の話を聞いて、理解すること。そして、できることから協力し合うことが大切だと思います。

――町民の皆さんにひと言

日本は、自分の努力次第で夢を実現させることが可能な国だと思います。

私も若い留学生たちに、五体満足なのだから頑張ればできると日々、背中を押しています。

今度は私が支えになりたい

山田（やまだ）　ヴァンさん（右）
妹のグエン・ティ・テゥ・タオさん（左）と
ベトナム出身

――日本に来て大変だったこと

日本には13年前、結婚を機に来日しました。その当時、ベトナム人は私だけで、話し相手がいなくて寂しかったです。当時はインターネットも普及していなく、国際電話も高額でした。

――苦労したときの支え

夫や夫の家族ですね。特に夫の祖母が優しく、日本文化や日本食の作り方を何度も丁寧に教えてくれました。

――日本や蟹江町の良いところ

親切な人が多くて、治安も良いので住みやすいまちです。また、温かい人が多いところです。

ボランティアの先生（KIFAの日本語教室）が言葉以外にも日本についていろいろ教えてくれてうれしかったです。

――国が違っても理解し合うために必要なこと

相手を理解することだと思います。言葉は違いますが、心は一緒なので相手を想う気持ちが大切だと思います。

――町民の皆さんにひと言

最近は、町内の外国人も増えているので、彼らが暮らしやすくなるサポートができればうれしいです。

ベトナムの郷土料理
「バンミー」
ベトナムのファストフード。フランスパンに肉やハーブ、野菜などを挟む。